



漁業者との連携による海底ゴミの実態把握、及び回収・処理体制構築の取り組み

財団法人 水島地域環境再生財団
塩飽敏史



みずしま財団とは？

- 1950年代～ 水島コンビナートが形成される
(大規模な埋立)
- 1960年代 大気汚染公害の顕在化
- 1983年 倉敷公害訴訟 提訴
- 1996年 倉敷公害訴訟 勝利和解
和解条項「和解金の一部を地域の生活環境の改善などに利用できる」
↓
- 2000年 行政・企業・研究者と市民が協働するための拠点として「(財)水島地域環境再生財団」設立



みずしま財団の活動

- 地域の再生
→ 瀬戸内海の環境再生
(海底ゴミ調査事業)
- 公害経験の継承、被害者支援
- 公害・環境学習
- 基本広報活動



「海底ゴミ」とは、

- 漂流ゴミ: 海面・海中を浮遊しているゴミ
 - 漂着ゴミ: 海岸に漂着したゴミ
 - 海底ゴミ: 海底に蓄積したゴミ
- ・「海草(アマモ類)」など自然物はゴミとして扱わない
・災害時に発生する大量の流木などは、今後の検討課題。



海底ゴミの問題点

- 1) 人目につきにくい
海の底にあるため、人目に付くことがほとんどなく、あまり問題意識をもたれない。
- 2) 漁業の妨げになる
ゴミが網にかかってくると、それを選り分けるのに手間がかかる。また、大きなゴミが掛かると、引き揚げると大変な苦勞をすることになる。
- 3) 漁場が荒れたり、水質汚染
海底ゴミが海の底に溜まると、海底の生き物が窒息できなくなったり、海底土壌中の海水の循環が妨げられて、環境が悪化すると考えられる。
- 4) 持ち帰っても処理できない
現状では、海底ゴミは、持ち帰った漁業者がその運搬や処理の費用を負担しなければならない。そのため、多くの漁業者は、網にかかったゴミを再び海に戻しているのが現状。



海底ゴミによる被害(漁網の破損)



瀬戸内海の海底ゴミ問題の状況

操業中ゴミが網にかかって困るという苦情

(瀬戸内法の海域)

(%)

	山口	広島	兵庫	大阪	大分	愛媛	香川	徳島	和歌山
よく聞く	45.8	51.5	51.5	85.7	30.8	40.7	56.5	53.8	58.2
時々聞く	45.8	33.3	42.4	0.0	61.5	51.9	39.1	38.5	33.3
聞いたことがない	0.0	9.1	3.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	8.3

・「聞いたことがない」のは、広島県では、網を使用しない矢野漁協など。
和歌山県では、由良浦漁協で一本釣りのみ。
大分県では佐賀瀬漁協。
兵庫県では阿那賀漁協。

・潮流の速い海峡部などでは、あまり問題がない。

* 太平洋側でもあまり問題がない。

和歌山県の太平洋海区では、「よく聞く」は14.3%である。



小型底曳網漁船

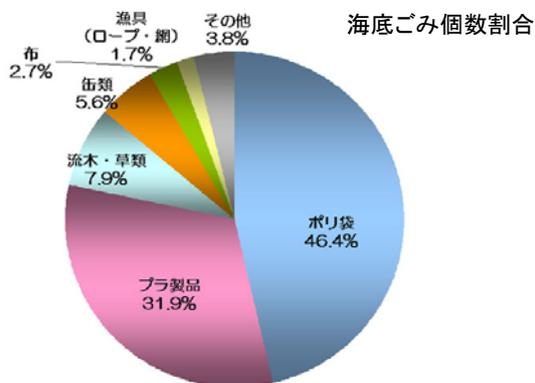
みずしま財団の海底ゴミ実態把握調査活動 (2006年度)



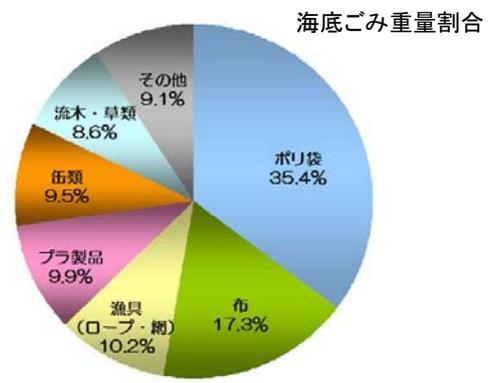
調査海域図



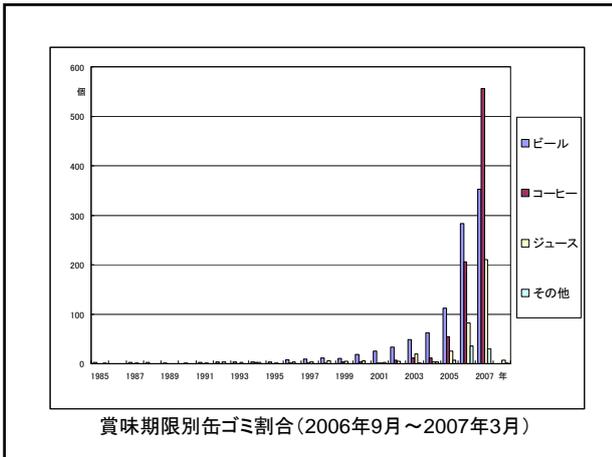
小型底曳網漁の様子
(船上で引き上げられたゴミを分別する)



品目別海底ゴミ個数割合 (2006年9月~2007年3月)



品目別海底ゴミ重量割合 (2006年9月~2007年3月)



瀬戸内海の海底ゴミ回収の取り組み

- 淡路島北東部の佐野漁協では、漁業者が小型底曳網で海底ゴミを回収。
- 広島県の江田島漁協では、青年部が中心となって、小型底曳網で海底ゴミを回収。
- 山口県周防大島では、行政の補助事業で小型底曳網による海底ゴミの回収(2年に一度)

↓

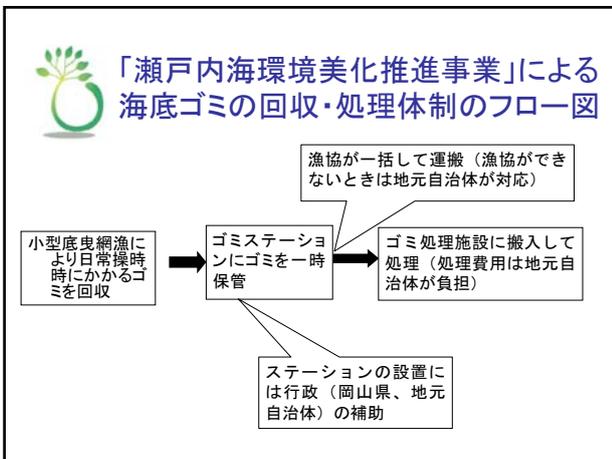
必ずしも十分とはいえないがたい…

岡山県日生町漁協における海底ゴミの回収・処理

- ・1980年代初めから小型機船底曳網で海底ゴミを回収。
- ・回収した海底ゴミは1kg2円の費用を漁協が負担して日生町が処理。
- ・当初は1日12トンも揚がったことがある海底ゴミが、1日約5kgにまで減少。
- ・2002年10月からは、町長が交替したため、海底ゴミの処理費用が産業廃棄物と同様の1kg6円に値上げ。
- ・日生町が備前市と合併したため、現在は、備前市の処理場で1kg10円で。

↓

- ・海底ゴミの回収処理を、漁業者と行政が協働して行えば、海底ゴミは大幅に減少。洪水時や大型ゴミを除いて。





おわりに

- 海底ゴミは、回収・処理の対策をとることによって、確実に成果が上がっている。
- そのためには、行政や市民団体との連携により、漁業者にとって負担の少ない仕組みを作ることが重要。
- 同時に、海底ゴミの発生源への対策として陸上に住む市民に対する、ゴミを出さないライフスタイル、社会への転換の啓発活動も必要。